



広報やしろ



幸手市シティプロモーション課職員による特別授業
(令和2年1月15日(水))

私たちは、八代小学校3年1組です。
私たちは、総合的な学習の時間で「幸手じまん」という学習を行ってきました。八代地区にある“じまんの種”を皆さんに紹介するために、実際に歩いて調べに行ったり、郷土資料館で調べたり、詳しい方にお話を聞いたりしながら“じまんの種”を育ててきました。

今回、学習したことを皆さんに広める活動（子どもたちは“花をさかせる活動”と呼んでおります）の一環として、「広報やしろ」の作成を行いました。作成にあたっては、幸手市シティプロモーション課の皆様へ「広報さって」の作成について教えていただき、参考にさせていただきました。

それではどうぞお読みください！

今号の特集記事



- 1 でんとうをつぐ大蛇！ このまちが好き幸手市
- 2 おいしいお米「彩のきずな」
- 3 ささら獅子復活！
- 4 神扇沼伝説
- 5 さがして見よう黄色いかんばん

「広報やしろ」の題字は、幸手市シティプロモーション課の皆様にご作成いただきました。



でんとうをつぐ大蛇!

七月十四日(日) 平須賀中株、香取神社で、大蛇作りをおこないました。わたしたちも体験しました。大蛇は、わらを使っ、てあんで作ります。わたしたちは、はじめで体験したけれど、他の人たちは、ほとんどあんでベテランだなど思いました。大蛇は悪い病気が他の地区から自分の地区に入らないように、と言うねがいをもめて作られ、地区のさかいめにせつちします。

作っていたベテランの人たちは、大蛇作りをつづけてもいいし、つづけなくてもいいと言う声が聞こえましたが、わたしたちは、大蛇作りをなくしたくないです。

大蛇作りをしている大人のベテランの方たちに負けないように、大蛇を作っ、ていきたいです。

△作り方(かんたん)△
① わらをあむ



② あんだものをさらにあむ。
③ 全体を合体する



おいしいお米「彩のさずな」

八代小学校では、お米作りで、お米作り名人の船川さんや、坂育さんにお世話になりました。三、四、五年生で五月二十九日に田うえをして、九月二十六日にいねかりをしました。

五月には、学校の周りは、緑のじゅうたんになっ、ていました。緑のじゅうたんとは、いねが入さく、た田んぼのことです。緑のほかに黄緑のじゅうたんがありました。黄緑と緑のお米は、どちらがおいしいか食べくらべてみてください。

八代小の周りには緑と黄緑が風になびいてきれいです。秋にはがやく金色のじゅうたんに分かります。わたしたちは八代小に通う時や、教室のう下からこの風けいが見られます。この風けいが八代のじまんです。

「彩のさずな」とは、暑さに強く、品しつ、のよいお米です。わたしたちも二月十七日のさずな食で食べてみました。もちもちしていて、かおとしてもあまくなくておいしかったです。このお米は、真、白でさらさらがかがやいていました。二月二十日にお世話になった八代地区のみなさんをおまねきして「彩のさずな」を一緒に食べました。みなさんも、さずなもおいしかったです。このようなお米を作った船川さんが令和元年九月十七日の朝日新聞でしようかいされました。船川さんは、とてもすごい人だと思いました。彩のさずなは八代のじまんのお米です。



八代小周辺の緑のじゅうたん

お世話になった船川さんと坂育さん



さくらじしふつ活

昔、七月ごろにさくらじしをやっていました。今はやっていないけど福島さんじょうほうでは、七月十二日にししまいお面を見られるそうです。昭和三十二年三月二十二日の広報さつてにのっていました。

今は、木の箱にしまっていており、あけると「おぼけが出てくるよ」といわれたのでそれほど大切なのかなと思います。さくらじしをやるわけは、えき病よぼうとほうさくきがんのちくてぎです。さくらじしをふつ活させられるようにみなさんとがんばっていきましょ。

福島さんにイソタビユー

十月十八日に八代小学校の近くにお住まいの福島さんにあいまして。福島さんにイソタビユーしてみました。

①福島さんは、ししまいをみたことがありますか？
②お面は、みたことがありますがもうすかたは見えたことがありません。

③さくらじしは、いつごろまでやっていましたか？

昭和五十五年まで行われていてその後はやめていたと思います。

福島さんの思い

ししまいのは、さば、かんたんなものではありませんが、みんなが安心、安全をねがいながら文化や地いきの宝を守り受けついでいきたいです。わたしたちも、ししまいをふつ活させて、みんなですべていけるようにがんばりましょ。



写真提供 文珠院の福島実人



獅子舞い



↑宝聖寺の宝物(郷土資料館)

宝聖寺は、平須賀にあります。ぼくたちは、五月二十八日に八代小から歩いて探検しました。古いたてものや大きな木があり、れきしがあるお寺です。宝聖寺には、「軍配うちわ」や、「五鈴杵(ごじょう)」などの宝物があるそうです。「五鈴杵」には、ひみつがあります。それは、神扇沼の伝説です。

神扇沼伝説

おかしむかし宝聖寺のおぼろさんが神扇沼を船で帰るときに大きな魚があらわれ一飲みにされそうになりました。おぼろさんは、手にもっていた五鈴杵を投げて大きな魚をたいじしました。

そのおかげで成仏できた魚がお礼に三まいのうち二をくれたことから鱗の字がついた「大鱗山」という名前が宝聖寺につきましました。宝聖寺の入口の門には、いまでも「大鱗山」のかん板がかがけられています。ハクイズコーナー✓

①神扇神社のとりいから何が見えるでしょうか。

②とりいには二つの文字があります。それは何でしょうか。

へ答えは次のページです✓





市の道路の起点となる道路元標がこの学校のしき地内にあることが書かれています。

宝聖寺にある黄色いみんぱんには、宝聖寺の正式な名前、たてられた時代、お寺にある宝物についてくわしく書かれています。

幸手市内には黄色いみんぱんがハナハレ、るいありま、れきしの夕、きき中のこと、しよめいしている黄色いみんぱんをみたりする人もみえています。

さがして見よう
黄色いみんぱん

黄色いみんぱんというのは、今の人たちに昔のれきしを伝えアハる物です。ぼくたちのかよ、アハる八代小学校の正門のあきにも黄色いみんぱんがあります。

編集を終えて

皆さん、「広報やしろ」はいかがだったでしょうか。八代小学校3年生は、今回の学習を通じて、自分たちが住んでいる八代地区にはたくさんの「じまんの種」があることを知り、「じまんの種」を膨らませて八代地区の皆さんに広める（花を咲かせる）活動に意欲的に取り組み、八代地区への愛着が高まったところでございます。

本来であれば、作成した子どもたちの感想や、学習を終えての八代地区への思いなどをこの欄に掲載しようと考えておりましたが、この度の臨時休業措置のため、掲載ができませんでした。

この場をお借りしてお詫び申し上げます。

今回の総合的な学習の時間の実施にあたっては、八代小学校3年生はたくさんの方々から多くのことを学びました。お米作り名人の船川さんご夫婦・坂斉さん、郷土資料館の原さん・岩澤さん、八代地区を誰よりも愛している福島さん、「花を咲かせる活動」として広報紙作りをご支援してくださったシティプロモーション課の千葉さん、本当にありがとうございました。

これからも、八代地区の「じまんの種」をたくさん見つけて、八代地区の素晴らしさを広めていきたいと思います。

今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和2年3月17日 発行

編集 幸手市立八代小学校 3年1組

発行 幸手市立八代小学校

神扇沼伝説ページのクイズの答え

①の答えは

**八代小学校
の校舎**でした



②の答えは

**天満宮
八幡宮**
でした

